

JR総連第40回定期中央委員会

2018JR総連春闘

統一ベア要求 6,000円

JR総連 第40回定期中央委員会



1. 2018JR総連春闘勝利! 格差賃金を許さず、非正規雇用の正社員化ならびにJRグループ労働者の一律賃上げと過重労働の撲滅に向けてたたかおう!
1. ^{いのち}生命をすべての価値基軸に安全を最優先する企業風土の再確立と、世代交代期における着実な技術・技能を継承するためにたたかおう!
1. JR北海道の「事業範囲の見直し」と赤字ローカル線の切り捨てを許さず、国鉄改革のスキームを基軸に、地域と共に鉄路の未来を切り拓くためにたたかおう!
1. 憲法改悪反対! 安全保障関連法廃止! 原発再稼働反対! 辺野古新基地建設反対! 戦争とテロに反対し、平和な社会を実現するためにたたかおう!
1. 安倍政権の暴走を許さず、あらゆる組織破壊攻撃に抗し、えん罪撲滅、反弹圧、反貧困、反差別を掲げ、美世志会と共につくり出した連帯の輪を基礎に、JR総連運動をさらに推し進めよう!

スローガン

JR総連は2月2日、目黒さつきビル会議室において第40回定期中央委員会を開催し、6,000円の統一ベア要求をはじめ、当面する活動方針を満場一致で確立した。

2018JR総連春闘の具体的な取り組みの4本柱として、①労働者の格差・分断を許さず、一律の賃金引き上げと労働諸条件の改善をめざす、②JRグループの賃金・労働条件の底上げと格差是正ならびに非正規労働者の正社員化と組織化を実現する、③36協定の遵守、長時間労働の撲滅、ワーク・ライフ・バランスの実現をめざす、④安全で働きやすい職場環境を確立し、年休が消化できる適正要員の確保をめざすことを確認した。

また、中央委員17名から2018JR総連春闘勝利に向けて、安全確立のたたかい、国鉄改革のスキームを守り、鉄路の未来を切り拓くたたかい、憲法改悪を許さず、組織の強化・拡大をめざすたたかい等の方針を補強する発言が出され、参加者全体で確認した。

JR総連は、国鉄改革の原点を基礎に、労働条件の向上と平和な社会を実現するために、すべての仲間の実践を通じて、組織の強化と各単組・労連の未来を切り拓くために奮闘する。

榎本委員長挨拶(要旨)

安倍政権は権力が法を支配し私物化している！



いま、国会が開かれ与野党が法案などの審議を行っているが、議論が噛み合っていない。憲法では主権者は国民であると明記されているのに、その主権者が国会から疎外されている状況下になっていくのではないかと。安倍政権が誕生して以降、さまざまな常識や価値観が逆転している。今の政治は権力が法を支配し、私物化している。森友・加計学園の特区扱いやJR東海のリニア建設費の一部を財政投融資から賄うなど、安倍首相のやりたい放題になっている。

憲法改悪を目論む安倍政権の暴走を止めよう！

安倍首相が目論んでいるのは、憲法の私物化であり、特に9条の改悪である。憲法学者の小林節さんは「政治とは、国民が平和に暮らすためのサービス機関なんだ」と実得的を得たことを言われている。いま国会で審議すべきことは、①いまより平和に暮らすことができるのか、②いまより人権が守られるのか、③いまより民主的に暮らせるのか、ということである。これらは、すべて憲法が保障したものであり、大臣や国会議員をはじめとした公務員は憲法擁護義務があり、国家権力に向けられた命令書である。

安倍自民党がめざす憲法は、国家独占であり、国民を国の統治下に置く、戦争ができる国にする、人権に制限を加える国づくりである。これらを組合員に訴え、憲法改悪を阻止しよう。

2018JR総連春闘を勝利しよう！

連合の2018春闘方針は、暮らしの「底上げ・底支え」「格差是正」、すべての労働者の立場にたった働き方の実現をめざすとしている。JR総連春闘も「労働者の格差・分断を許さない」など、第2号議案で提起している。ここで確認したいのは、自分たちだけが組合と組合員の利益だけを求めてはダメ

だということだ。連合を構成する産別の中には、残念ながらベアについて1%しか要求していない組合もある。3,000円の要求の組合もある。すべての労働者の立場にたった要求なんだろうか。

現在、日本の労働組合の組織率は17%台であり、8割以上が未組織の労働者である。さらに組織されていたとしても、企業規模や男女間の格差、正規や非正規の格差がある。たまたかのキーワードは、連帯と共闘であり、これが労働者の最大の武器である。職場で日々、額に汗して働く組合員の思いから出発し、2018JR総連春闘をたたかい抜こう。

安全を再確立するために職場からたたかおう！

昨年12月、のぞみ34号で台車枠の亀裂という重大インシデントが発生した。また、架線切断や大雪による輸送障害も発生した。これらに共通していることは「たぶん大丈夫」という意識であり、事故を未然に防ぐという意識が希薄化している。最終的に事故を未然に防ぐのはそこで働く労働者だ。判断に迷った時は躊躇なく列車を止めるといふ職場・組合風土をつくりだそう。列車を止められない原因、企業体質があるとすれば、そこを徹底的にたたかおう。

国鉄改革の原点を軸に鉄道の未来を切り拓こう！

JR北海道が「事業範囲の見直し」を発表してから1年以上が経過するが、北海道に限らずすべてのJR会社が、輸送密度2,000人未満の線区を多く抱えている。これは、JRにとどまらず国交省の調べでは、地方鉄道が全国で75社あるうち8割が赤字経営である。さらに、2000年以降に35路線が廃止になっている。

しかし、31年前に発足したJR各社は、線路を残すことを前提にスタートした。経営が厳しい会社には基金の運用益で補てんする。あるいは承継特例、3島特例を付けて経営にあたる。本州3社は、黒字経営を前提にして、債務を抱えながらスタートした。しかし、いずれの会社も組合員の雇用をしっかりと守っていく、政治の介入を許さないということを掲げて、国鉄改革を取り組んできた。私たちは、分割・民営化を担ってきたのではない。雇用と仕事と

生活を守り、鉄道の未来を切り拓くために今後もたたかっていく。

JR北海道の経営陣に言うておきたいことがある。この30年間、株主である国に何を言ってきたのか。

あるいは、株主である国は低金利、ゼロ金利になったとき、何と言ったのか。そのことを明らかにしないで単に自治体や利用者に犠牲を求めするのは不作為の行為であり、経営者失格である。

JR発足30年の検証を通じて、さらに組織を強化しよう！

働き方改悪を許さず、労働者の待遇改善を勝ち取ろう！

政府は、労働時間の規制緩和法案を2月下旬頃に提出する方針だ。安倍首相は今国会を「働き方国会」と呼んでいるように、そうとうな決意で審議するだろう。月の超勤100時間を認めるものとなっているが、100時間は過労死ラインと言われている。つまり、過労死の合法化であり、過労死を容認するものだ。

もう一つの問題は、一定の年収、1,075万円以上の労働者は、どんなに働いても残業代がゼロとなる労基法改悪である。この2つの共通点は、労働者のためではなく、あくまで人件費の削減という経営者側にメリットがあるものだ。JR総連は連合と共に、労基法改悪に反対してたたかっている。

これらの問題を本質的に解決するためには、国際労働機関・ILOの条約を日本が批准しなくてはならない。日本はこれまで、労働時間に関するILO条約は一つ一つ批准していない。ましてや、36協定を結んで労基署に届ければ、時間外労働や休日労働が企業の思いのままに適用されてしまう。これがネックとなっている。

ILOの1号条約では、1日8時間、週48時間制とされ、日本は1947年に労基法が制定されたが、36協定があることで批准できていない。

私たちは、働き方改悪を許さず、労働者の待遇改善を勝ち取るためにたたかおう。



【議長団】 宮村委員 (JR貨物労組)・徳田委員 (ソフトバンク労組)

大会方針を補強する17名の委員の発言!

17名の委員からは、① 2018 JR総連春闘勝利に向けたたたかい、② 格差ベア根絶に向けたたたかい、③ JR北海道の鉄道と地方ローカル線の未来を切り拓いたたたかい、④ 安全確立のたたかい、⑤ 憲法改悪を阻止し、平和・人権・民主主義を守るたたかい、⑥ 組織破壊を許さず組織を強化・拡大するたたかいなど、活動方針をさらに骨太にする発言がされた。

JR総連は、職場からの運動を基礎に、JR総連に結集する各単組・労連の仲間と共に、2018 JR総連春闘を勝利し、憲法改悪を阻止し、平和で安心して暮らせる社会を実現していくために、奮闘していく。



柳書記長総括答弁(要旨)

2018 JR総連春闘について



多くの委員からJR総連春闘を牽引するとの発言をいただいた。JR東労組からは格差ベア根絶のたたかいについて、回答次第ではスト行使を含む戦術行使を構築し、妥協なくたたかい抜く決意が示された。JR総連に結集する全グループの労働者は、JR東労組のたたかいに固く連帯してたたかおう。

私たちはJR総連春闘として、連合が掲げる「底上げ・底支え」と「格差是正」に向け、労働者の格差・分断を許さず、ベア6,000円の一律の賃金引き上げでたたかおう。

また、経営側に労働基準法遵守を求めると共に、組織拡大を視野に労働者としてのあたり前のたたかいを実践し、連帯と共闘をキーワードに正規・非正規を問わず、JRグループ全体の仲間の労働諸条件の改善をめざし、すべての労働者の立場に立って、たたかい抜いていこう。

■安全の再確立と技術・技能を継承する取り組みについて

昨年12月、のぞみ34号の台車枠に亀裂が入り、名古屋駅で運転をとりやめるといふ重大インシデントが発生した。異常を認識していたにもかかわらず、列車を約3時間も走行させたことは、福知山線脱線事故を想起させるものであり、安全確保より営利優先・運行優先の企業体質が今も貫かれていた実態が明らかになった。

また、JR東日本でも昨年9月の蔵交流変電所での作業誤りによる停電、10月には東鷲宮駅での「がいし」破損による送電トラブル、そして12月には、JR京浜東北線の鶴見―川崎駅間で架線が切れ、京浜東北

線が7時間にわたって運転を見合わせる事態が発生した。

これらの事態は、「何かおかしい」と思っても列車を止める判断ができなかったということであり、「たぶん大丈夫だろう」と判断してしまうという事実にならない。

私たちは、命をすべての価値基準に安全を最優先する企業風土の再確立と、世代交代期における着実な技術・技能を継承させるために、職場の隅々からたたかおう。

■鉄道の未来を切り拓いたたたかいについて

私たちは血と汗と涙で乗り越えた国鉄改革の精神の下、「愛され、親しまれ、利用される 鉄道」めざして、JR総連と連帯する多くの議員の方々や、人口減少と地域の過疎化を止めるためにも鉄道を基軸にした町づくりを思考し、沿線自治体の方々とも堅く連帯し、JR北海道をはじめとする鉄道の未来を切り拓くためにJR総連一丸となつてたたかおう。

■憲法改悪反対の闘いについて

安倍首相は「憲法改正をいよいよ実現する時を迎えた」と述べ、2018年中にも改憲案の国会発議を目指す姿勢を示している。私たちは何としても改憲を阻止するために、国民投票に勝利しなければならぬ。

私たちは沖縄で新基地建設反対のためにたたかい抜いていく仲間たちと固く連帯し、憲法改悪を阻止し、立憲主義と平和・人権・民主主義、そして、脱原発で平和な社会を実現するためたたかい抜こう。

